

令和4年度 江戸川区立瑞江中学校 学校関係者評価 最終評価用報告書

学校教育目標	『自ら育つ』	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	【学校像】(1)安心感・清潔感のある学校(2)学ぶことが楽しい学校(3)安全・安心な学校(4)家庭や地域社会との連携を図る学校(5)教職員にとって、働きがいのある学校 【生徒像】み=認め合う生徒 ゼ=ずるを許さない生徒 え=笑顔で心掛ける生徒 をスローガンに(1)思いやりの気持ちと豊かな気持ちをもち、ルールを守る生徒(2)意欲的に学力向上に努力する生徒(3)積極的に体力向上に努力する生徒(4)物事に真摯に取り組む、誠実な生徒 【教師像】「子供の力を伸ばし、高めようとする教師(1)生徒指導:深い愛情と厳しさを併せ持つ教師(2)学習指導:わかる指導を通して知識欲を喚起する教師(3)生徒、保護者、地域
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果>「学力向上」については数学・英語の習熟度別・少人数授業の導入により、全国・東京都の学力調査の平均値との差を少しずつ縮めている。「健全育成」については不登校加配教員の導入、特別支援教育推進委員会の定例の話し合いにより一人ひとりの生徒、保護者に寄り添った丁寧な対応ができ不登校が少しずつではあるが解決に向かっている。学校生活全体は学校生活満足度が高い生徒が多く落ち着いた学校生活を送っている。 <課題>「学力向上」に関しては上層と下層の二極化が進んでいることが課題である。生徒のアンケートを見ても家庭学習習慣の定着が課題であることがわかる。「健全育成」についてはまだまだ不登校生徒がおり、特別支援教育の推進、充実を組織的に進めていくことが課題である。		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		来年度に向けた改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	・7つの主な事業(取組)に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	定期考査前の補習。各検定前の受験者試験対策補習の実施。放課後学習教室の運営	年間35日以上での補習の実施。放課後学習教室の出席率を100%に近づける。	B	B	各学年定期考査前にも実施。放課後学習教室も3年目となり、かなり定着してきている。業者とも関係がよくスムーズに運営できている。	B	学力向上に対しての意識は高く、要望も大きい。	勉強の取り組みに課題のある生徒に対しても参加しやすくなるような工夫をしていく。
	体力の向上	・「運動意欲の向上」に向けた取組の実施・充実	体カテストの測定と結果の活用 食育指導日の設定	体カテストの体力合計点で都の平均を目指す。 栄養士と連携し、第1学年において授業を設定する。	B	B	運動会など生徒が主体的に練習に取り組むことで、運動に対する意欲と体力向上を推進する。また、教員は体力向上委員主催の研修会に参加し、情報を得ることができた。 保健体育の授業で栄養士と連携し、栄養教育の実施することができた。	B	学校生活の中で部活動の占める割合は非常に大きい。体育の授業だけではなく、普段から体を動かす習慣を身につけたい。	都の活動方針に沿って充実した活動を行っていく。体育の授業においては、補強運動を必ず取り入れ、負荷を与えることにより体力の向上を図る。
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	朝読書の実施。図書委員会だよりを発行しおすすめ図書紹介。	週4回10分間の朝読書を年間通して実施。 タブレットを活用し、調べ学習を実施。新聞やプレゼンテーション作成ソフトを使用し、発表に活用する。	B	B	朝読書は定着し、整然と行われている。調べ学習を通して探究力が定着した。調べ学習を行い新聞作成。プレゼンテーション作成ソフトを活用し発表を行った。	B	読書離れを懸念しているため読書はぜひ推奨してほしい。	図書室の利用や良書の紹介など啓発に努めていく。 調べ学習を通して成果物の更なる充実を図る。
特別支援教育の推進	共生社会の実現に向けた教育の推進	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実	特別支援教育コーディネーターを中心としたSC・特別支援巡回指導員・特別支援巡回心理士・SSWと連携した特別支援教育推進委員会での情報共有と解決策の検討会実施。	毎週火曜日、時間割の中に特別支援教育推進委員会を設定。年1回校内研修会で生徒の情報交換会実施。	A	B	SC、SSとの連携、保護者との関わりは良好である。不登校率5%以下が課題。	B	SDGSの観点からも色々な個性を認め合える社会の実現に取り組んでほしい。	関連機関との連携を推進する。また、SCやSSWなどの効果的な活用方法を検討する。
	子供たちの健全育成	・子供たちの健全育成に向けた取組の強化	生活指導部の充実および特別支援委員会の充実。	毎週火曜日の特別支援委員会、木曜日の生活指導部の打ち合わせを実施。	A	A	特別支援委員会・生活指導部での情報を共有し、組織的に取り組む。今後、SNS家庭ルールなどを活用し、各家庭に啓発していく。	A	学校・家庭・地域の連携が不可欠である。	特別支援委員会と生活指導部の連携。学校全体での研修会。Hyper-QUの活用を推進する。
学校と家庭、地域、関係機関との連携強化	学校関係者評価の充実	教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施・改善	ホームページの充実	学校の様子を積極的に伝えている	B	B	各学年、校外学習や校内での活動をホームページにおいて情報発信した。	B	この数年間はコロナの影響が大きかった。	来年度は定期的な評議委員会の開催。
	関連機関との連携	地域活動の取り組み	区制90年の一環として地域清掃に取り組む。また、SDG'sとしてコンタクトレンズケースのリサイクル運動に取り組む。	区制90年地域清掃を11月17日に実施予定。参加率70%を目指す。 リサイクルは年1回、アイシティに届けている。	A	A	今後、参加率について検討する。 リサイクル運動は今後も継続していく。	A	今後、様々な活動で連携が大切である。	ボランティア活動のみならず、様々な活動を通して連携を図る。
特色ある教育の展開	「学校における働き方改革プラン」	「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	一斉退勤日の設定 学校閉鎖期間の設定 部活動指導員・外部指導員の活用	教員の時間外在校時間を80時間以下を目標とする。	B	B	時間外在校時間80時間超は部活動会場などにより1名 部活動指導員1名。外部指導員4名。	B	先生たちが疲弊しないように働き方改革を進めてほしい。	合同部活やクラブ・部活動指導員の活用を推進する。
	外国語教育の推進	・授業力の向上とALTの効果的な活用および英検の充実	パフォーマンステストやスピーチでALTを効果的に活用。 ・英語検定対策講座を設定する。	年間36日派遣されるALTを各学年授業で活用するとともに放課後、カンパセーションクラブで会話に慣れさせる。 ・英語検定2次受験者、合格率100%を目指す。	B	A	スピーチテスト、カンパセーションクラブでALTの教員は有効に活用することができた。	A	子どもたちの学力を伸ばして欲しい。	外国人講師の活用。英語検定に向けての補修。放課後学習教室の活用を図る。